

天天中文シリーズ講座：中国語でキャリアアップ！

「中国語でキャリアアップ！」は中国でキャリアを発展させる各界の方々に、仕事の現場や中国語学習法についてお話を伺う「天天中文」のシリーズ講座。中国の各界で活躍する皆さんに、仕事や生活のリアル体験をお伺いします！

第12回（2022年8月27日）ゲスト：前澤綾子さん

神戸市出身。大学卒業後、文部科学省に入省し、2021年3月より在中国日本大使館に勤務。以前から漢詩や中国の小説、映画、生活文化に興味関心があり、かつて独学で中国語を学ぼうとしたが挫折、北京転勤を機に再チャレンジ中。なぜか中国人からよく道を聞かれるので、ちゃんと答えられるようになりたいと思っている。

前澤：みなさん、今日はよろしくお願ひします。私は大学を卒業して、文部科学省に入り、主に科学技術、文化などの仕事をしていました。アジアとの研究交流、文化交流の担当などもして、そのような経歴を積み重ねるなかでずっと海外に行きたいという希望を出していました。それで最初にオファー頂いたのがインドだったんですよ。もう少し若かったら受けていたかもしれませんが、かなり落ち着いた年齢になっていたのであのエネルギーはちょっとしんどいな、と思ひまして一回お断りして。そして次に中国のオファーをいただいて、それを受けて今に至る、となっています。

北京には2021年3月に来て、1年半になります。以前から中国は仕事でも関わりがありましたが、もともと学生時代から香港映画が好きだったのです。横浜中華街にも出かけて楽しんでいて。あと、私は出身が神戸なのですが、神戸も中国とご縁があるところなので、赴任は偶然かつ必然だったのかなあ、という気がしています。

かつて公務員の留学制度でアメリカに行っていて英語はそこそこできるのですが、中国語はほとんどやったことがなかったのですね。大学時代に独学でチャレンジしたことがあるのですが最初の四声で挫折してしまひまして。今回の中国赴任が決まってから外務省の初心者用の2か月の特訓を受けて送り込まれてきました。簡単な挨拶、店でのやりとりなどはできるのですが、仕事でも人前に出て挨拶したりなども必要になってきて、今、週に2、3回、「天天中文」のレッスンを受けています。朝、出勤する前にレッスンができるのが便利でありがたいなあと思っています。だんだん伝わるようになってきているのが嬉しいですね。

天天中文：今日のご参加ありがとうございます。まず前澤さんに質問です。日本大使館に赴任なさっていますが、大使館には前澤さんのように各省からの赴任の方が他にもいらっしゃる

やるのでしょうか？

前澤：そうですね。各国の大使館には各省からの出向ポストがありまして、出身省と近い領域の仕事をしています。私の場合でしたら教育、文化関係を担当、ということになります。在中国の日本大使館はいろんな省庁からたくさんのお出向者が赴任してまして、世界のなかで最大規模の大使館になっています。それだけ中国と日本の関係は重要ということかと思えます。

天天中文：そんななか、具体的にはどんなお仕事をなさっているのでしょうか？

前澤：主に中国の教育制度の調査をしたりしています。先週は天津で職業技術教育に関するかなり大きなシンポジウムがありまして、出席してきました。中国はいま若い方の失業問題が深刻になっていますが、そんな背景もあり政府もかなり力をいれている印象があります。また、文化担当として、日本大使館で日本文化を紹介するいろんなイベントを行っています。お花、お茶など伝統文化のほか、7月末には「ドラえもん」×「恐竜」という無敵のテーマでイベントを開催しました。中国でとても有名な恐竜研究者の方がいらして、その方が昔からの日本のアニメが大好きで、ご自分の発見された恐竜の足跡の化石に「エウプロンテスノビタイ」という「ドラえもん」の「のび太」にちなむ名前を付けたのです。その先生のご講演と、「ドラえもん のび太の恐竜」をみる、という内容で、中国の親子で大盛況になりました。

天天中文：さきほどの職業技術教育のお話ですが、中国はそちらの方向にも注力する気運があるのでしょうか・

前澤：はい、でも高校レベルの職業教育というより大学レベルですね。日本もある程度同じ状況ですけども、これからの産業、端的にいうとIT、高度精密機械などと人材の能力がマッチしていない、と。ですのでハイレベルな技術人材を育てなければならない、そのようなメッセージを繰り返し聞きました。ただ中国が面白いのは、そういう場のなかに、中華料理の職業学校なども混じっているんですよ。その学校の展示もあったのですが、精巧に作られた点心が並んでいて、面白かったです。IT系が一番、といっても、若い人が手に職をつけ一生食べていけるように、ということで幅広く取り扱う方向性を感じました。あと、中華料理などは、中国文化の世界への発信、ということにも関わるので、そういう意味でも人材育成を重視しているように思います。

天天中文：私の印象では、中国はとにかく高学歴のホワイトカラー重視で、商店の店員や宅配の配達人など、みな口々に「自分は勉強ができなかったから」と言っていて、肉体、手先

を使う仕事は、ご本人もコンプレックスを持ち、周囲も下に見る意識がとても強いと感じます。それが変わってくると面白いですね。

前澤：そうですね。日本以上に学歴至上主義のところがありますので。

天天中文：それでは次は語学について。前澤さんは語学がお得意で、学生時代、英語のスピーチコンテスト荒らし、といわれていたそうですが、今、英語と中国語の違いなど、どんなふうに感じていらっしゃいますか？

前澤：やっぱり中国語の一番難しいところは発音ですね。英語はイントネーションとかアクセントの強弱が違って話せば通じるんですよ。それが中国語だと四声が違うとまったく違う意味になってしまうので、そこが一番苦労しているところです。なので、短文リピートイングなど、やってみて良かったと思っています。

天天中文：そしてこの1年半が過ぎて、中国への印象はどうでしょう？

前澤：やはり刺激的なところですね。まず規模が違う。広いし、人は沢山いて、建物は大きいし、道路は長く、圧倒されます。そしてIT化が進んでいてスマホ一つでなんでも完結できるところが新鮮です。私は10年ほど前、中国によく出張で来ていましたがそのころに比べ、街はきれいになり物が豊かになり、本当に便利になったと感じます。治安もよくなりましたし。10年前、地下鉄に乗っていて買ったばかりのiPhoneをすられたことがあるのですが、いまはスリも減っているのでしょうか。私はジョギングが趣味で市内の公園を走っているのですが、中国人のランナーたちも荷物を置いたままでランニングしているんですよ。もちろん貴重品などは身に着けているとは思いますが、荷物は持っていけないだろう、と思っているようですね。

天天中文：10年前くらいだとスリは頻発していましたよね。そういえば、最近はほとんど経験していません。

いろいろ楽しいお話、ありがとうございました。それでは次は会員の方から質問があれば、ぜひどうぞ。

会員：さっそくですが、香港の映画がお好きと聞いたのですが、何かおすすめはありますか？今ちょうどウォン・カーウアイの作品が4Kで上映されるイベントがあって全部見に行こうと思っているところなので。

前澤：まさに私はウォン・カーウアイから入っていて、彼が一番好きですね。やはり『欲望

の翼』から入ってレスリー・チャンが凄く好きになって、ビデオはほぼ持っています。

会員：いま日本の若い方はウォン・カーウアイ、知らないかもしれませんが、金城武、フェイ・オンなど、彼の映画から日本で大人気になった俳優がたくさんいますよね！90年代の終わりから2000年代の初めにかけては、金城武が好きで中国語を始めた、という人は結構多かったです。

前澤：ウォン・カーウアイは『花様年華』も良かったです。香港映画というよりフランス映画みたいでしたが。大人の切ない恋愛ですね。

会員：マギー・チャンがヒロイン役で、彼女のチャイナドレス姿がとても美しいですね！それだけでも見に行く価値があると思います。『花様年華』は若い女性の花のように美しい時期を指す言葉だそうです。

レスリー・チャンを知らない方には、香港ではなく北京が舞台の『さらば、わが愛/霸王別姫』、京劇がテーマのこの作品からぜひ見て頂きたいです！広東語でなく普通語ですし大学の中国語の先生もおすすめするような大作なので。

会員：大学時代、広東語を勉強してたのですが、80年代から90年代にかけての香港映画は、本当に香港らしさがあって盛り上がっていましたよね。僕は特にB級映画なのですが「Mr.B00」シリーズが大好きでDVDは全部持っています。今の香港映画は面白いものもあるのですが、あまり香港らしくなくて、大陸で撮影しても、香港で撮影しても、あまり違いがないように思います。そのシンボルが大陸で主に活動するようになったジャッキー・チェンでしょうか。

前澤：映画は最近、北京の映画館でも見ていて、少しでも聞き取れると嬉しいですね。北京でみたなかでは『你好，李焕英』（邦題『こんにちは、私のお母さん』）が良かったです。改革開放前後の中国の田舎の様子がよく描かれ、それにお母さんと娘の愛情の在り方、ギャグのセンスなど、世界のどこにもっていっても普遍的に受け入れられるのではないかと思います。あとは、香港の大スター、アニタ・ムイの生涯を撮った映画『梅艷芳（ANITA）』も面白かったです。少し辛口に言えば、アニタ・ムイは民主化運動なども積極的に参加していたはずなのですが、そのあたりは一切触れられていなかったのですが。

会員：ところで、みなさん、映画やドラマを見ていてのヒアリングについてはどのように勉強していますか？私はいま「天天中文」ですっと同じ先生について勉強しているのですが、その先生の言うことは分かるのですが、他の先生に変わると言っていることがわからなくなるのが悩みで……。

天天中文：一人の先生の言うことは分かる、というのは、ヒアリングがあるレベルに達しているということでもあるので、自信は持っていただきたいですが、先生がこれまでのレッスンの内容からその生徒さんにとってわかりやすい表現や単語を使っている、ということはあると思います。先生が変わると、言い方や単語の選び方が違うので、わからなくなることはありますよね。「全部の人の言っていることが全部わかる」というのは、あり得ないので、最初に自信を持つためにはある程度一人の先生で、そこからレベルアップしようと思ったら、違う先生の違う言い方をヒアリングしていく、という方法が良いと思います。

会員：確かに中国だと、南部の人と東北の人では話し方が全然違いますよね。私は仕事でいろいろな出身地の中国の方の話を聞くのですが、最初の10分くらい、その人の話し方や発音に慣れて、だんだん聞き取れるようになる感じです。

天天中文：僕自身も、地方に行くとなまりのある中国語に苦労します。以前、四川省にいった時は一緒に出張した中国人のスタッフでも地元の人中国語が全然理解できなくて、仕方がないので別の担当者に出てきてもらったこともありました。地元の人は一生涯懸命、普通語を話しているつもりなんですけど、四声が違うので、もう全然聞き取れなかったです。

前澤：ところで中国語には、「可愛いなまり」というのは、あるのでしょうか？この地方のこのなまりが魅力的、といったような。

会員：そうですね、台湾の人の話し方だと、北京の人のような捲舌音がないので、柔らかく優しい感じはありますね。台湾式の発音のほうが日本人にも話しやすいように思います。逆に私は、大陸で中国語を勉強したので、台湾に行くと「なんでそんなに大陸っぽい話し方なんだ!？」と言われてたりもしますね。

この後、中国語や勉強法についてさらに交流が続きました。

文・天天中文

